No.147　　2018 年 10 月号

沙羅の樹文庫だ･よ･り

文庫あれこれ◆疲労感が全身を覆ったまま、東京を出て、伊豆へ。読みかけの本にも気が乗らずずっと海をみていました。秋の海の色は、夏とどうちがうのだろうか、とか思いながら深い藍色の海を。伊東の海に近づき、そう言えばもう51歳になった息子が5歳のこの季節、海に入りたいと駄々をこね、主人がパンツひとつで息子を伊東の海に浸したっけ。その時はもっと小さな娘3人と私は唖然としたけれど、過ぎ去って見ればこれまた懐かしい思い出に。◆最近夫さんが旅行に行きません。で、私は、9月末から3日ほど、2年に1度ある「全日本語りの祭り」に参加がてら、那須高原に行ってきました。那須は主人が単身赴任で5年間過ごし、私も何度か訪れたのですが、2013年に出来た藤城清治美術館が観たかったので。緑濃い広い敷地に建つ中にこれでもかというばかりの藤代世界が広がり満足しました。それと、ステンドグラス美術館もよかったです。◆「祭り」では、地元の子どもの九尾の狐にまつわる伝説と、地元の若者による九尾の狐太鼓は素晴らしかったです。◆はじめの2日は台風の影響あいにくの風雨(このとき東京は被害甚大)でしたが、帰る日は秋晴れで、那須5連峰もくっきり見えました。◆帰り道、同室4人で、宇都宮に途中下車して在住の従妹の車で、大谷石建造物見学と大谷石採掘場跡へ。私は2度目でしたが、みんな感動していました(写真は147-2に)。◆この右下の写真「コキア」をご存知でした? 10月８日付けの朝日の天声人語でその名を知りました。でも実である「とんぶり」は知っていました。新宿にある「ぼるが」という焼き鳥屋に行くと必ず頼む大好物の一品です。写真では花のように見えますが、木です。それも美しく紅葉した。天声人語氏は栃木小山市のコキア畑に触れていますが、写真は茨城ひたちなか市です。木は別名・箒草。昔これでほうきを作っていたそうな。でもうつくしいですねえ。◆火曜日に少学1年におはなしに行って、季節がら、おちばおちば木の葉っぱの詩を読んだら、38人みんなが一斉に朗唱してくれました。詩の好きな先生から習ったばかりだったんですって。嬉しいひととき。この学校も池小学校ほどではありませんが、だんだん子どもが少なくなって、1学年1クラスが多いそうです。◆寒くなってきましたが、気候は少し落ち着き、更けゆく秋のそこはかとない淋しさを味わえそうです。それぞれの読書の秋をお楽しみください。◆子どもたち、ハロウィンの本、集めておくね!　　（西村）

沙羅の樹文庫開館スケジュール

2018

★開館日は通常は第３日曜と前日の土曜です★

◆10 月は通常 20 日（土）～21 日（日）両日
◆11 月は変則 4 週 24 日（土）～25 日（日）両日
◆12 月は通常 15 日（土）～16 日（日）両日
16 日 AM クリスマスおたのしみ会あります。

2019

◆1 月は通常 19 日（土）～20 日（日）両日
◆2 月は通常 16 日（土）～17 日（日）両日
◆3 月は通常 16 日（土）～17 日（日）両日

通常の文庫の時間
土曜は 14:00～17:00　日曜は 10:00～15:00

✿毎月開館日の日曜には、10:30～11:30
子どものための小さなおはなし会があります。

★毎月開館土曜日 11:00～13:00
✿✿おはなし沙羅の勉強会✿✿

よみきかせの練習・本選びの勉強にもどうぞ!
☽よみきかせ、かたりの参考資料多数在庫

ひたち海浜公園(ひたちなか市)のコキア・紅葉(ネットから)

沙羅の樹文庫ホームページをご覧ください。
http://saranokibunko.com

京都・栂尾高山寺 紅葉(ネットから)

(今から 55 年まえ学生のころ、思うところあって、京都、奈良、和歌山を一人旅しました。高山寺はその後も何度か訪れましたが、20 歳の秋の日暮れ、ひとりお座敷に座って眺めた紅葉は忘れられません。)

おちば

わあ　すごい
　きいろ
　あか
　ちゃいろ

あきのいろって
　こんないろなんだね

名越悠希さん (4 歳当時)

おちば

おちば　おちば
きのはっぱ
やまのこざるが
ひろったら
おもちゃのおかねに
するかしら

ならのき、かしのき、
きのはっぱ
やまのこりすが
ひろったら
でんしゃのきっぷに
するかしら

おちば　おちば
きのはっぱ

（与田準一・詩）

2018年10月に読んだ本についての感想

2018年10月18日　By　森林浴

『　第21回「伊豆文學賞」優秀作品集　』
伊豆文學フェスティバル実行委員会編
羽衣出版刊　平成30年初版発行

此の文学賞はすでに1997年から20年以上続いたもので、結構よく続いていると言って良いでしょう。

私がこれに注目し始めてからもう４～5年は経っているのではないかと思う。でも一般には案外知られていないし、わが沙羅の樹文庫に買っていただくために伊豆高原の１軒しかない本屋さんに注文したが、その本屋には置いてなくて、特注で取り寄せてもらいました。主催者は何でもっと宣伝し、地元の伊豆半島の本屋にはどこにでもあるというふうにしたらどうなのか、なんて思いましたね。

静岡県、静岡県教育委員会、伊豆文學フェスティバル実行委員会、が主催して、文化庁、読売新聞東京本社が後、スルガ銀行が協賛していると記されている。

現在は、小説・随筆・紀行文部門とメッセージ部門に分かれており、最優秀作品の賞金は前者が100万円、後者が５万円だそうである。沙羅の樹文庫にも応募者が現れてもいいかも。何年か前に私が初めて見た時は、この分類がもっと分かりにくく、私はわざわざこの主催者になんだか部門の設定がはっきりしないとメールで文

だか部門の設定がはっきりしないとメールで文句を言った覚えがあります。

本年の最優秀小説は「鋳物師七郎左衛門」という遠州森町の鋳物師の物語で、一種の歴史小説。森町と言うのは遠州にある町で、私はまだ行ったこともないところ。でも選定委員の嵐山光三郎によると、江戸時代から林業、製茶業が盛んなところらしい。　★森の石松の在所?!

・・・✿✿✿・・・

18 年 10 月に入った. 子どもの本

絵　本
『黄金りゅうと天女』(代田昇文　赤羽末吉絵 BL 出版 2018 復刊) ID12836

よみもの
『きみ、なにがすき?』(はせがわさとみ作　あかね書房 2017) ID12838＊□1、2年用課題図書
『見習い物語　上・下』(レオン・ガーフィールド作斎藤健一訳岩波少年文庫) ID12839&12840
『魔女の宅急便１～6』(角野栄子作　福音館書店) ID12841～6※完結６セット入れました。まだ読んでなかった人どうぞ
『原民喜童話集』(原民喜著　イニュニック 2017) ID12833　『毬-原民喜童話集別巻』(末明編集室編　イニュニック 2017) ID12834

お母さんに
『石井桃子のことば』(中川李枝子他著　新潮社 2014) ID12847
『乳幼児おはなし会とわらべうた』(落合美知子著　児童図書館研究会 2017) ID12835
『戦争なんか大きらい』(子どもの本・九条の会著　大月書店 2018) ID12837

今月は子どもの本の入庫が少なかったです。
11 月には、もう少したくさんいれますね。(さ・ら)

18 年 10 月入庫・寄贈本

新　書
『仕事も人生も娯楽でいい』(堀江貴文著　たからじま) ID17648　『教養は児童書で学べ』(出口次朗著　光文社新書) ID17637

文　庫
『口入屋用心棒　武者鼠の爪』(鈴木英治著　双葉文庫) ID17647　『口入屋用心棒　御上覧の誉』(鈴木英治著　双葉文庫) ID17646
『流れの勘蔵(鎌倉河岸捕物控 32 の巻)』(佐伯泰英著　ハルキ文庫) ID17645
『夏の雪(新・酔いどれ小藤次 12)』(佐伯泰英著　文春文庫) ID17644　『椿落つ(新・酔いどれ小藤次 11)』(佐伯泰英著　文春文庫) ID17643
『秋霜やまず(吉原裏同心抄 3)』(佐伯泰英著　光文社時代小説文庫) ID17642
『ヒコベエ』(藤原正彦著　新潮文庫) ID17641
『空飛ぶタイヤ』(池井戸潤著　実業之日本社文庫) ID17640
『暗黒結晶　上』(ジェームズ・ロリンズ著　扶桑社ミステリー) ID17638
『暗黒結晶　下』(ジェームズ・ロリンズ著　扶桑社ミステリー) ID17639
『検察側の罪人　上』(雫井侑介著　文春文庫) ID17634　『検察側の罪人　下』(雫井侑介著　文春文庫) ID17635
『Zoo2』(乙一著　集英社文庫) ID17649
『モップガール 2』(加藤実秋著　小学館文庫) ID17650

単行本
『生きて死ぬ智恵』(柳沢桂子文　堀文子画　小学館) ID176
『大谷石百選』(大谷石研究会編集＆発行) ID17672

※<読むたのしみを～北のくにから>は、147-2 のページに掲載

読む楽しみを～北の国から　１１

亜子　記

『死の島』(小池真理子著　文藝春秋　2018 年 3 月刊)　――自分で死を選べるのか？――

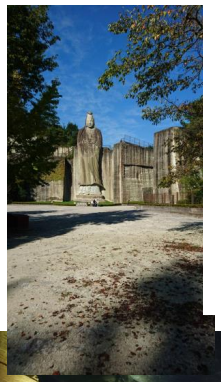
小池真理子さんは性愛（エロス）を描いてきた作家というイメージが強く、それが苦手な私は、最近はほとんど読むこともなかった。ところが、この『死の島』は性愛とは関係なし。末期ガンに侵された元編集者、一癖も二癖もある 69 歳の理知的な男が、どういう最後を選び取るのかという非常に興味深い内容。

主人公の澤登志夫（69 歳）は大手出版社で長いあいだ文芸畑編集者として辣腕をふるってきた。44 歳の時、6 歳年下のラジオ局の魅力的な美人ディレクター三枝貴美子に恋をして、彼女におぼれる。彼の浮気に愛想をつかした妻に離婚され、それからは独身をとおしている。離婚する原因になったほど夢中になった貴美子との恋も終り、いつしか友人の関係にかわり、そして別れ･･･。現在はカルチャーセンターで小説の書き方を指導する講師をしている。そこには、たった一人だけ、粗削りではあるけれど本当の小説を書ける才能に恵まれた樹里という 24 歳の若い女性がいた。物語は澤がカルチャーセンターの講師を辞めるところから始まる。腎臓ガンに侵され、おまけにガンは腰椎に転移し、もはや治る見込みはない。最後をどうするか、考えこんでいたところに、かつて愛した女性、三枝貴美子が末期ガンに侵され、最期は自宅で在宅介護を受けながら尊厳死を選んだという知らせが入る。彼女は澤にスイスの画家、アルノルト・ベックリーンの「死の島」という絵の解説本を残した。ちなみに、本書のタイトルはここからとったものだが、残念ながら、この絵は本書の表紙にはなっていない。本書の表紙画は若い女性が横たわるイラスト画であり、私は少し不自然に感じた。ベックリーンの「死の島」が表紙画であったなら、この本を見る読者の目は違ったものになったのではないか。不思議な神秘をたたえた「死の島」という絵は、誰をも寄せ付けないようでいながら、死者を静かに迎え入れる暗さと美しさに満ちている。貴美子の意図を理解した澤は自分もこの「死の島」に向かう準備を着々と始める。

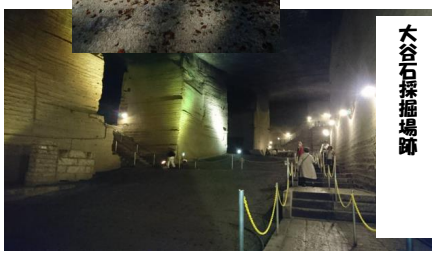
若いけれど、今どきの女性とは一線を画す野暮ったく純粋で、しかも知性的な樹里。彼女との精神的なつながりだけが澤の救いのように思えた。もうすでに肉体的に彼女を抱くこともできないが、いとしく思える存在に出会ったことは最後に神様から与えられた慰めかもしれない。どんな死に方をするのか、澤は決めていた。それは編集者時代に知った驚くべき手段なのだ。人生に区切りをつける澤の心情が痛いほど感じられて、自分ならどうするか、そればかりを考えて読み進んだ。自殺が是か非か、それは読者の判断にゆだねられている。安楽死や作家たちの自死についても考えさせられる。川端康成のガス自殺、三島由紀夫の割腹自殺、江藤淳の手首を切っての自殺。ヘミングウェイの猟銃自殺。それらをも引き合いに出しながら、厚みと深みのある死の世界を描く。

安楽死や終末期について書こうとしたのは、小池さん自身のご両親の壮絶な最期を看取ったからこそ。様々な葛藤や日本的な独特の文化的風土（医者は最後まで患者を助けることに全力を注ぐのがいいこととされるし、家族は一日でも長く家族を生かすことがいいこととされる風土のこと）、胃ろうも終末期沈静（ターミナル・セデーション）も家族が決めることはなかなか許されぬ国。しかし、それでいいのか、という問題提起の書である。　**※まだ文庫にありません。**

大谷石でできているカトリック松が峰教会(宇都宮市内)



大谷観音日本最古の石仏・高さ27M)



大谷石採掘場跡

18 年 10 月に入った大人の本　　ほかに寄贈本入庫リストは 147-1 裏に

沙羅の樹文庫だより 147-2

フィクション

『すぐ死ぬんだから』(内館牧子著　講談社 2018) ID17622
『母のあしおと』（神田茜著　集英社 2018）ID17623
『鏡の背面』（篠田節子著　集英社 2018）ID17652
『国宝　上　青春篇』（吉田修一著朝日新聞出版 2018） ID17653
『国宝　下　花道篇』（吉田修一著朝日新聞出版 2018） ID17654
『最初の悪い男』（ミランダ・ジュライ著　新潮社 2018）ID17655
『戦時の音楽』（レベッカ・マカーイ著　新潮社 2018）ID17657
『ぼくの兄の場合』（ウーヴェ・ティム著　白水社 2018）ID17656
『変わったタイプ』（トム・ハンクス著　新潮社 2018）ID17658
『プロット・アゲンスト・アメリカ』(フィリップ・ロス著　柴田元幸訳　集英社 2018）ID17674 ※request

エッセイほか

『たそがれてゆく子さん』（伊藤比呂美著　中央公論新社 2018）ID17624
『こないだ』（山田稔著　編集工房ノア 2018）ID17625
『本を読む。松山巖書評集』（松山巖著　西田書店 2018）ID17626
『Book bar-お好みの本、あります。』（杏&大倉眞一郎著 2018） ID17627
『あぁ、くたびれた。-幻の随筆集』(高峰秀子著　河出書房新社 2018）ID17663
『立原道造 故郷を建てる詩人』(岡村民夫著　水声社 2018）ID17659
『星のなまえ』（高橋順子著　白水社 2018）ID17660
『世界史を大きく動かした植物』（稲垣栄洋著 PHP エディターズ・グループ 2018）ID17671
『柳田国男を歩く-遠野物語にいたる道』(井出孫六著　岩波書店） ID17628
『キリストと出会う-洗礼を受けるまで』(遠藤周作、椎名麟三他著　日本キリスト教団出版局）ID17629
『踏絵を踏んだキリシタン』（安高啓明著　吉川弘文館 2018）ID17630
『日本を見つめる』（小澤俊夫著　小澤昔ばなし研究所） ID17631
『ノモレ』（国分拓著　新潮社 2018）ID17632
『ある世捨て人の物語-誰にも知られず森で２７年間暮らした男』（マイケル・フィンケル著　河出書房新社 2018）ID17633
『誰も書かなかった日韓合併の真実』（豊田隆雄著 彩図社 2018）ID17673※request
『大英帝国の歴史　上・下』（ニーアル・ファーガソン著　山本文史訳　中央公論新社 2018）ID17661～2

文　庫

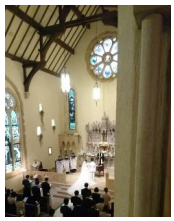
『竹久夢二詩画集』（石川桂子編　岩波文庫）ID17620
『麻布襍記』（永井荷風著　中央公論新社 2018）ID17621

新　書

『原民喜-死と愛と孤独の肖像』(梯久美子著　岩波書店 2018）ID17667※童話集も入れました。
『昭和の怪物―七つの謎』（保坂正康著　講談社現代新書 2018）ID17668
『日本史の論点』(中公新書編集部編　中公新書 ※request
『信長公記――戦国覇者の一級資料』（和田裕弘著 中公新書 2018）ID17670

藤代清治美術館図録あります。(禁帯出)

那須５連峰(茶臼岳、朝日岳が中央)：18.10.2 友人撮影



上：ステンドグラス美術館での結婚式に遭遇
右：藤代美術館入口門と庭園チャペルの中